
大勝利！？大東亜戦争

タイフーン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

大勝利！？大東亜戦争

【Nコード】

N8723L

【作者名】

タイフーン

【あらすじ】

シベリア出兵の際ちゃっかり北樺太をいただいたが、世界恐慌や関東大震災を受け中国大陸に進出できなくなってしまった。

世界恐慌を乗り越えるため「朝鮮」「関東州」「台湾」の貿易を拡大しなんとか乗り越えられた。

その間にインフラ整備や技術導入を行った。

ブローグ

1945年8月15日オアフ島南西270海里沖

第2艦隊旗艦戦艦「信濃」 - - - -

「電探に感つ！、一時の方向1、2・3・8いずれも米新鋭戦艦、他多数、距離50000」

阿部艦長

「やっと、姿を現したな、開戦から3年半貴様らとここで白黒つけようじゃないか」

山口艦隊司令長官

「そのようだな、艦長、この戦争一刻も早く終わらずぞ！重巡群、水雷戦隊は突撃せよ！戦艦群は30000にて一斉回頭」

第4、5、7戦隊、第2、4水雷戦隊が30kt以上發揮して颯爽と白い航跡を海上に漂わせ戦艦群を抜いていった。

戦艦「大和」 - - - -

有賀艦長

「この戦負けられんな。右舷戦闘、合戦用意！砲術長命令あり次第

いつでもいけるように。本艦の砲撃目標は敵2番艦、モンタナ型だ」

黒田砲術長

「ハッ、了解いたしました。」

「距離30000、信濃回頭始めました、艦長っ！米艦隊も右回頭始めました」

有賀

「ナニイ！？、だが事前の打ち合わせどおりだ、取舵いっぱい！
！」

「取舵いっぱい、よろろっ」

独特のイントネーションで伝声管から伝わる

「回頭終わりました、続く武蔵も回頭を始めました」
後続の第2、3戦隊も続く・・・

有賀

「砲撃戦はじめっ！！」

黒田

「主砲、てえっ！！」

雷鳴のごとく46cm砲9門、41cm砲13門、35、6cm砲
20門が一斉に火を噴いた。

大東亜戦争最終決戦、軍配上がるのは日米のどちらか？

ブログ（後書き）

1週間に1、2回のペースで更新していく予定ですが、遅れることもあります。

ご了承ください。

質問、ご意見等がありましたら、いろいろお願いします

激闘！！ユトランド沖大海戦（１）

1914年6月 サラエボ

数発の銃声が鳴り響いた。大衆はわが目を疑った。皇太子夫妻が撃たれたのである。

犯人は自殺しようとしたが取り押さえられた。

翌月、オーストリア政府はセルビアに対し最後通牒を突きつけた。セルビアは2点を除き受け入れたが、オーストリア政府は宣戦布告した。それに続くようにドイツ、イギリス、フランス、ロシアが宣戦布告を行った。さらに、日本も8月に日英同盟を理由に参戦した。

ここで、ひとつ問題が起きた。

欧州戦線に援軍を派遣するかどうかである。当初は太平洋方面のドイツ軍を駆逐するだけであつたがイギリスからの度重なる要請に日本政府は頭を悩ましていた。

連合国に恩を売っておきたいところであるが、場所が場所である。遠すぎるのである。そこで、日本は援軍第一弾として通商保護部隊を出した。そして、真打ちは第二弾であつた。無理矢理竣工を早めた戦艦「扶桑」「山城」を主力としそのほか「河内」「摂津」を含めた艦隊であつた。本来は金剛型4隻を出すべきであつたであろうが、新戦艦の実力を見ておきたかったのである。

そして、1916年4月末、欧州派遣艦隊は日露戦争時のバルチック艦隊のように地球を半周してイギリス本国艦隊根拠地スカパフロに到着した。

翌月の末イギリス軍はドイツ海軍が大規模な作戦を計画していることを察知した。そこで英海軍はジェリコー大將率いる本国艦隊をスカ・パフローから翌日にはビーティー中將率いる高速艦隊がフォース河口を出撃した。日本艦隊はジェリコー艦隊とともに行動した。

5月31日 1420

「南東に敵艦あり!!」

ビーティー指揮下の偵察隊からの情報が伝わったのである。

すぐさま、巡洋戦艦部隊が突撃を開始した。

1530

英独艦隊はほぼ同時刻に敵艦隊を視認した。ヒッパーはシェア率いる主力艦隊にビーティー艦隊を誘導するように変針した。

ドイツ艦隊 旗艦「リュッツソー」

独海軍の戦艦は前弩級戦艦を含め26隻だが、英海軍は30隻を超える。まとも撃ち合っても勝ち目はない、各個撃破するため主力のところまで誘導するしかない。

「取舵だ、艦長」

「了解、取舵」

ドイツ艦隊は南東に変針した。

そのころ、イギリス艦隊では・・・

「長官、あちらは5隻、こちらは6隻、数で勝っています。追いましょうー!」

「うむ、だがしかし・・・」

「わかりました。第5戦隊にも続かすようにしましょう。」

「ならば、そうするでしょう。信号旗を揚げろ」

こうすることによって、第5戦隊も続いてくる・・・

はずだったが、濃霧によって視認することができなかった。よって英独ともに巡洋戦艦のみの砲撃戦を行うことになってしまった。

独艦隊 「リュッツォー」

「距離14000、目標敵1番艦、主砲、つてえー!」
振動が艦橋に伝わる。また、後続の4隻も続く。

「だんちやーくう、いまっ」

イギリス巡洋戦艦の3隻に命中した。

「幸先いいぞ、このまま撃ち続けろ」

約10分後、ようやくイギリス艦隊は初めて命中弾を出した。しかし、

「敵艦中央部に命中！！、火災発生の様様」

だが、ドイツ海軍の幸運もそう長くは続かなかった。それはクイーン・エリザベス級戦艦4隻からなる第5戦艦戦隊が接近してきた。

それでも、ヒッパーはおり作戦が成功している考えた。

「ライオン級巡洋戦艦轟沈！！」

「デアフリンガー」の主砲弾が「クイーン・メリー」の弾薬庫に命中したのである。ちなみに下村忠助中佐も艦と運命をともにした。

その後、両軍ともに主力が戦場に到達した。

戦いの行方はどうなるのか？

激闘!! ユトランド沖大海戦(1) (後書き)

1週間に1、2回のペースで更新していく予定ですが、遅れることもあります。

ご了承ください。

質問、ご意見等がありましたら、いろいろお願いします

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8723/>

大勝利！？大東亜戦争

2010年10月9日21時54分発行